平成１７年度病害虫発生予察特殊報第１号

平成１７年８月１２日
発表：福島県病害虫防除所

病名　リンドウ炭疽病（*Colletotrichum gloeosporioides*）
（*Colletotrichum acutatum*）

１　発生の状況

平成17年８月に、会津地方で露地栽培されているリンドウにおいて、生長点付近の茎が褐変し、茎枯れ症状を示す株が発生した。福島県農業試験場が同定を行ったところ、リンドウ炭疽病菌が県内で初めて確認された。その後、周辺のリンドウほ場でも同様の症状が見られ、リンドウ炭疽病菌が確認された。

２　病徴

生長点付近の茎が褐変し、病徴が進展すると病斑（図１）が紡錘形となり陥没し、病斑部直上から萎れ枯死し茎枯れ症状を示す（図２）。症状が激しい場合は株が枯死に至る。

図１　本病による発生状況

図２　症状が進行し、激しい場合は株が枯死に至る

３　発生生態

本病原菌は被害残さとともに土壌中で越年し、翌年の伝染源となる。降雨や灌水時の土壌の跳ね上げにより植物体に菌が付着し、感染する。病斑は紡錘形となり被害部周辺が枯死し、病斑上に黒点状の分生子層と鮭肉色の分生子塊を形成する。その分生子が主に雨滴で飛散して周辺株へまん延する。

また、リンドウ炭疽病の病原菌である（*Colletotrichum gloeosporioides*）（*Colletotrichum acutatum*）は、多犯性の菌で野菜類、花き類など、多くの植物で感染の報告がある。

４　防除対策

（１）栽培時に発病が見られたら直ちに発病部位、発病株をほ場外に持ち出し処分する。

（２）多湿条件で発生しやすいので、栽植密度を適正にし、通風を良くして排水対策を十分に図る。

（３）土壌の跳ね上げや水滴などによって病斑上に形成された分生子が飛散して伝染するため、株元への強い灌水は控え敷きわらやマルチ等を行う。